

Dedicated To International Peace and International Understanding

関西

学友会



2004



YO NE YA MA 20

ロータリー米山奨学生学友会（関西）は関西地区に居住する
米山奨学生OB及び現役奨学生の同窓会です。

目 次

緑の下の力持ち	陳 麗華	… P.1
同窓会誌20号発刊に寄せて	近藤 雅臣	… P.1
両輪のはぐるま	山本 和雄	… P.2
友達を作ろう	向井 菊美	… P.3
地区米山奨学生委員会・委員になって感じる事	永江 溥	… P.3
第一回米山奨学生会学友セミナーに参加して	黄 嘉琪	… P.4
ある運動会に参加した日	権 貴玉	… P.5
国際交流活動報告	恵 浩星	… P.6
2003年秋懇親会報告書	祝 炳俏	… P.7
帰国学友からの近況報告	張 航飛	… P.8

2003年度のテーマ「異文化コミュニケーション」

王 蔚	… P.9
黄 嘉琪	… P.10
万 軍民	… P.12

It's NEW 愛の広場	… P.13
'03年度活動写真	… P.14
It's NEW 世界のロータリアンとコミュニケーションしませんか!!	… P.15
'03年度米山奨学生学友会（関西）役員名簿	… P.16
'02年度会計収支決算報告書	… P.18
'03年度会計予算（案）	… P.19
2003年度会員名簿	… P.20
相談コーナー	… P.21
2003年度活動報告	… P.22
会員の消息	… P.22
編集後記	… P.23
会報広告依頼	… P.24
広告ページ	… P.25

表紙の絵

学友会のイメージに合うようにクラシック風で
勉強に使う道具を描いてみました。

米山奨学生OB 権 貴玉

縁の下の力持ち



米山奨学生学友会（関西）会長

元世話クラブ：奈良RC

陳麗華（台湾）

大阪産業大学非常勤講師

本会は設立して、はやくも18年目を迎えることになりました。その間、数多くのロータリアン及び学友先輩の支えなしには今日まで至れないと思います。またその上、このたび、本会会報20号を発刊できることはひとえに皆様のあつい思いに感謝の気持ちを込めて、方々にお礼を申し上げたいと思います。

この会を任されてから、しかるべきビジョンを考えてまいりました。米山精神を受け継いできた私達はこの会を通じて、どれほど発揮できるか答えを探しながら、試行錯誤でようやく光が見えて参りました。

誠にささやかですが、今年度よりボランティアを実行している学友、林小微さんのアドバイスを受けて、その上役員のご支持を得て、さっそく「家庭養護促進協会」と「大阪市ボランティア情報センター」に登録して、地域社会で役に立とうと有志数名で始めました。まだまだ参加回数は少ないですが、どれも有意義で楽しい思い出ばかりです。これらの活動は本会報p.5、6で報告しておりますので、どうぞご覧になって下さい。

これをきっかけに関西に残る学友のご参加に期待しております。

同窓会誌20号発刊に寄せて



(財)米山記念奨学会理事

RI2004年国際大会(関西)実行委員長

近藤 雅臣

千里RC

日本で唯一18年間も同窓会誌を発刊し続けてこられた関西同窓会の活力に対し敬意を表しますとともに、ともに歩んできたロータリアンの一人として喜びに堪えません。最近、寄付金が減少傾向にあり、全国的に奨学生の数についての論議が高まっている中で皆様の活動は関西のロータリアンのみならず全国の米山活動に対して希望を与えるものと思います。米山奨学生の皆様が幅広く社会に、そして、世界に貢献されている姿に日本のロータリアンは感動し、奨学活動への更なる活力が与えられるものといえます。陳麗華会長はじめ役員の方々の努力、そして、それを引き出した歴代の会長、役員の方々の貢献に賛辞を贈りたいと思います。どうか、今後もより活発な同窓会活動を通じ、社会に貢献して頂きたいと願っています。国際ロータリー2004年国際大会（関西）の開催も目前に迫ってきました。そして、ロータリーの一世紀が終わり二世紀に向けて羽ばたく準備をする年でもあります。私たちロータリアンはここでもう一度原点に戻り、真のロータリアンのあるべき姿を追及し、それに近づくための努力をすべきときであると自覚しています。大阪での国際大会はそのひとつの区切りであり、明日のロータリーに向けての飛躍の場であると考えています。そして、「Lend A Hand」のテーマのもとに世界から集うロータリアンが手を取り合い、その心を世界に発信す

る場になればと願っています。同窓会の皆様もともに手を携えこの大会を盛りあげて頂ければ幸いです。



両輪のはぐるま

RI2660地区米山奨学委員会委員長

山本 和雄

大阪なにわRC

米山の事業が救済型（慈善事業）から脱却し、最近のロータリアンが米山奨学生に求める優秀性の傾向としては、

- 学 業 学問に対する研究の目的・目標を明確にし、研鑽を重ねてその成果をあげる努力をする。
- 異文化理解 異なる文化・習慣などを理解する努力をする。
- コミュニケーション能力
言語のみならず、人間関係における円滑なコミュニケーションを築き、自己の確立と共に他者を受け入れる柔軟な姿勢を持つ。
- 地域交流ボランティア活動
社会参加の一つとして、地域との交流やボランティア活動等に関心を持つ。

ということである。

従って、当地区における選考も「学業の優秀性」もさる事ながら、上記の事項を勘案した「優秀性」を持ち合わせた学生を採用する事に、本年度から重点を置く事にしていきます。学友会においても、この事を踏まえて後輩諸君を指導して頂きたいと思えます。

当地区では2003年現在、すでに597名の米山奨学生をお世話し、これに関わって頂いたロータリークラブは86クラブ中、実に82クラブに及んでおります。しかしその後、奨学期間が過ぎると同時に音信不通が大半となっており、学友会の理解を得ながら、地区委員会と共同して、その追跡調査をし、この各世話クラブ別に名簿を作成するというネットワーク作りをしたいと考えております。これらが完成した段階で、世話クラブにお願いして、週報等の情報提供をしながら、相互親善に努める基盤づくりをしたい。常に「太陽が輝いているのに、向日葵が顔を向けない筈がない」を反復しながら、地区活動を推進したいと思います。

奨学生の提出義務でもあります9月度のレポートを見ておきますと、地域活動に積極的に参加する人、ロータリーについて更に知識を得ようとするアクティブな学生が多くなって来ています。レポートの為のレポートが、以前は見受ける事が多々ありましたが、ようやくにして「米山奨学会」の理解が深まりつつある事、特に10月に開催された「学友会レクリエーション」に参加して、その事実を実感しました。



友達を作ろう

RI2680地区米山奨学委員会副委員長
学友委員長

向井 菊美

神戸東RC

文部科学省は03年5月現在の留学生が10万9508人と過去最高を更新し、83年に策定した「留学生受け入れ10万人計画」が目標に達したと発表された。大学、短大、高等専門学校生57,911人や大学院生28,542人が含まれて、この2年間で急増した。日本の少子化と学費が生計費に過大な負担となって学生数の減少や、アジア経済の発展などで私費留学生が増えたことと伝えられている。米山奨学生も（財）記念奨学会発足以来、累計11,542人をお世話し、近年は毎年1,000人を超える留学生の採用が続き、「明日を築く優秀なる留学生」の支援育成に努めている。米山奨学生を終了して博士号の取得者は02年度までに、実に2,602人に達し、世界各地を舞台に活躍されている。これらの方々はすべて「米山学友」です。

過日、作詞、作曲、歌手を兼ねてる著名な方の新聞コラムに、“知り合いか友達か”と題して掲載がありました。大変感動を憶えました。要旨は「長い人生で、数多くの人々と知り合いや友達を持つが、人生の最終章で最大の財産とは、結局友達と云える人間をどれほど持っているかだ。人々は社会に出て活動の場が拡大につれて知り合いが増加する。また自ら求めて増やしたりもする。さも親しげに短い会話を交わすけれどお互いの内実のことは殆ど知りもしない。友達とはとても云えない知り合いが多くなる。気の置けない、遠慮も要らない、変な緊張感も持つ必要がない、お互いにバカを云え合える。まさに友と云える関係への渴望が年齢とともに湧いてくる。」私は40年余り商社に従事して数多くの友や知り合いを国内外に得ることが出来て幸せでした。今でも内外に親しくお付き合いしている方々がいます。しかし殆どが取引などの付き合いが無くなると終わります。歳を重ねて分かるのは、まさに友と云える人は、学友のなかと、社会にでた当初から付き合い合った同僚のなかに居ます。やはり本当の友を一人でも多く持ちたいもので、親しい友は最高です。

すでに良き友をお持ちの米山学友の方々と思いますが、良き縁があって米山学友とされているので、ぜひ学友相互の交流を深め、語り合う機会を積極的に作り、良き友を見出だして下さい。奨学会でも特に交流に重点をおいて、国際とか地域社会での交流・貢献などと云われているが、良き友達を作るのも大切なことと思います。



地区米山奨学生委員会・委員になって感じる事

RI2660地区米山奨学委員会委員

永江 溥

大阪天満橋RC

私はロータリアンになって8年を経過しました。半ば強引に学生時代の先輩に勧誘され入会したロータリークラブでしたが、良き友を多数得たことは正直感謝いたしております。唯、

社会に対する慈善活動、奉仕活動という面ではライオンズクラブに比べてアピール度が低いと物足りなく思っていました。丁度その折、今年七月より地区米山奨学委員会の委員に推挙されました。当初は仕事も忙しいのに大変な事になったとの思いがありました。その後米山奨学事業の活動状況を詳しく知り一万人以上の留学生に奨学金を贈り、その人々が各方面で活躍されている事を知りました。又、奨学生、学友会の人々とも懇親する機会を得、その生き生きとした姿、目に接しロータリアンである事を誇りに思いました。奨学生及びOBの各々には今後共尚一層の国内外に於けるご活躍を期待しております。

ところで話は変わりますが、私、十数年前にいろいろな事が重なり大変精神的に落ち込んでいる時期がありました。その時に私を救ってくれたのは中村天風先生の著作と気功教室でした。その購読と訓練の中で“人間は生きている”のではなく、“生かされている”のだという事を実践し、知りました。それでは何によって (by) 生かされているかと言うと「神」という人もあれば、宇宙エネルギーと答える人もあるでしょう。では何の為に (for) 生かされているかと問えば、それは“他の為に尽くす”という事でしょう。

私はそれ以来、常に自然体で他の為に尽くすのが人間の生きる道であると確信いたす様になりました。皆様は外国で奨学金を受けるという大きな幸運に恵まれました。神によって選ばれた人々であるとも言えます。どうか人間に求められる道、他の人々の為に尽くす事により、素晴らしい人生を送ってください。特にあなた方の母国と日本との友好に寄与される事を祈っております。



～知的交流を考える外国人留学生の集い～

第一回米山奨学会 学友セミナーに参加して

元世話クラブ：大阪住吉RC

黄 嘉琪 (台湾)

会社員

日時：2003年10月11日 (土) 13:00～17:00

場所：東京大学本郷キャンパス山上会館2階 大会議室

主催：米山奨学会セミナー実行委員会

共催：(財)ロータリー米山記念奨学会

後援：外務省 (財) 日本国際教育協会

本セミナーは米山奨学会学友会として初めて主催したセミナーである。主旨は日本で生活している留学生や外国人生活者が本セミナーを通じて、日本の社会とコミュニケーションを取り、そして世界平和と国際貢献につなぎたいというものである。

基調講演に前日本平和学会長岡本三夫氏によると、いわゆる「平和学」というのは、戦争の諸原因と平和の諸条件についての学問的研究である。「平和」は消極的平和と積極的平和に分けられる。消極的平和というのは、戦争の不在であり、積極的平和というのは、衣食住、人権、福祉、エンパワーメント、構造的暴力の極小化である。より一層体系化にすれば、下記の分野に細分できる。

- 1・「戦争と軍事に関する研究と教育」(物理的争いを中心にした暴力の批判)
- 2・「政治的、経済的、文化的、宗教的、人種的解放に関する研究と教育」(弱者に対する暴力の批判)
- 3・「生活スタイルの見直しに関する研究と教育」(自然に対する暴力の批判)

- 4・「学習過程と態度形成に関する研究と教育」(心理的・教育的暴力の批判)
- 5・「哲学的・倫理的・神学的・宗教的平和思想に関する研究と教育」(平和学的理論的基礎つけあるいは体系化)

従って、岡本教授の「平和日本」の発信を踏まえながら、「留学生の知的貢献」をテーマとしたパネルディスカッションで次のような結論が出されました。

- ①自己アイデンティティの遠慮不要
- ②グローバルゼーションに対するローカリゼーションの臨機応変
- ③積極的に社会参加、地域参加、学業・異文化理解・コミュニケーション能力などを備える米山奨学生の役割
- ④奉仕活動から異文化理解、国際理解教育へのつながり

つまり、国は社会の縮小で、社会は会社の縮小だと言ってもよいであろう。異なる国籍、異なる言語、異なる文化的背景を持つ複数の個人が組み合わさった現在の日本社会において生じる難題を拡大鏡で見れば、それは21世紀グローバルな時代の要請に応じてきた諸問題である。日常的で細かい違和感の累積から、つい異文化の摩擦にまで拡大する場合もあるだろう。

また、国際化社会へ向けて異文化の「架け橋」となるコミュニケーションの理解を深めることは、ますますその重要性を増してきている。

米山奨学生の役割としては、以前にもまして、より日本社会と組織を形成し、世界市民として、効果的に、積極的に地域参加、文化体験。そして、世界の舞台で協力できる能力を養い、現在の平和秩序を再生し、創造することである。米山奨学生は自国のアイデンティティ能力を持ち、グローバルな商品化の波に降伏するのではなく、世界市民の一員として、自分が持っている固有の価値や論理、偏見を捨て、意識的に排他主義の枠組みから脱却する必要がある。そして、異文化共生を前提として、これから登場してくる異文化への誤解を踏まえ、国際ロータリーの奉仕の精神を貫き、米山記念奨学事業の原点に還り、異文化理解、コミュニケーション能力、国際理解を終生の課題として前進することが求められる。



ある運動会に参加した日

元世話クラブ：園部RC

権 貴玉 (韓国)

日本画家

今まで、学友会は米山奨学生のOB達と交流をしてきましたが、今年に入って、何か社会と関わりを持ちたいという提案があったので、社会奉仕を申し込みました。

今回、初めて実現したのは大阪の社団法人家庭養護促進協会が主催した養子親と身体障害児童達の親子運動会を手伝う事でした。

11月2日学友会では4人参加し、大阪の長居小学校のグラウンドで、朝8時30分に集合し、テントを張ったり道具を運んだり、いろいろと準備をしました。

10時30分に運動会が始まって、4時まで進行を手伝って、終わってから片付けをして、5時に終わりました。

みんな本当の親子のように、仲が良く楽しそうでした。

私は何かの縁があって、親子になったので、幸せな家族になって欲しいなと思いました。

現在、実の家族の中でも、非情な事が多い社会の中で、本当の親子でなくても、お互いに大切に思っているのを見て、心が温まる1日でした。

これを機会に、学友会ももっと社会の奉仕に参加し、積極的に活動していくべきだと考えました。



国際交流活動報告

世話クラブ：大阪淀川RC

恵 浩星(中国)

大阪市立大学博士課程

平成15年11月22日、異文化理解の目的で、奈良県木津中学校において、国際交流会が行われました。今回、ロータリー米山奨学生学友会（関西）陳会長の紹介を通じて、奨学生2名とOB2名が講師として招かれ、中国と台湾の文化や慣習などについて、学校の生徒たちに紹介をさせていただきました。

9：45分から始まった交流会は、終始友好的で和やかな雰囲気でした。私担当の二年三組は、生徒が30名あまりのクラスで、目で見ると、陽気で活発な人が多くいるようでした。教室に入ると、いきなり「你好」「謝謝」という中国語で声をかけてくれた生徒がいました。また、教室まで足を運んでくださった生徒のご両親の姿も見かけました。私は簡単な自己紹介の後、生徒たちが6つのグループに分かれて、事前に調べておいた中国の食文化、遊び、スポーツ、教育制度、行事、政治の6項目について、それぞれ発表しました。私はそれに対して、コメント及び説明を行いました。さらに、中国で一番盛んなスポーツや子供たちの遊び方および一年中豪華な料理が食べられる行事、英語教育などの質問がありました。最後に、私が中国のことを、写真を見せながら紹介しました。

生徒たちとの付き合いは、わずか2時間で終わりましたが、非常に有意義な経験でした。特に、一番忘れられなかったのは、心が通じ合えるようなコミュニケーションに取り組んで

いた生徒たちの努力です。中国のことについて、各種の資料を調べて丁寧にまとめた彼らの報告は、私も感心をせざる得ないほど詳細なものでした。講師の立場にあった私は、教えるというより、かえって教えられたこともあったような気がします。このことから、私は社会におけるコミュニケーションの大切さを再び実感しました。それは単に学習を通じることによって知り得たもののみでなく、日常生活の中で、さまざまな社会活動に参加し、人としての交流をするなど、社会との出会い、人との出会うことによるところも大きいです。このような心が通じ合う交流がないかぎり、異なる社会における多くのことを知り、真の国際交流や理解ができないと思います。

最後になりましたが、このような貴重な交流の機会を与えてくださったことに本当にお礼を申し上げたいと思います。



2003年秋懇親会報告書

元世話クラブ：武蔵国分寺RC

祝 炳侗(中国)

小林製薬(株) 研究開発

2003年10月13日の早朝、大阪では珍しく土砂降りで、町には車も、人も少なかったですが、大阪中央郵便局の前には人だかりがしていました。この日は関西米山学友会の秋懇親会の日なのです。悪天候にもかかわらず、地区米山委員の方々及び現、元米山奨学生及びその家族の皆様は楽しみにしながら早く集合場所にやって来ました。

9時ぐらい、バスが目的地の篠山へ向かって、出発しました。バスの中で皆懇談したり、笑ったりして、とても賑やかでした。その後懇親会のメインな行事のひとつの「貿易ゲーム」を行うために、バスの中で班分けの抽選も行いました。これは更に興味を添え、いったいどのようなゲームなのか皆が楽しみにしていました。いつしか目的地に到着して、早速「ユートピアささやま」の研修室で、ルールについての説明を聞き、事前バスで抽選した番号で分けられた班毎で、ゲームが始まりました。各班のメンバーはキャプテンのリードで、他班の人と交渉したり、班内で相談したり、真剣に思考したり、一生懸命商品を作ったり、10歳の子供から50代の大人まで、全員興味深く参加していて、賑やかな雰囲気が会場全体を包み込みました。最後の賞品授与とまとめでは、みんなが楽しかった、すごくよかった、もう一回やりたい等などと心からの感想を述べました。

楽しいときに、時間が経つのが意外に早いです。貿易ゲームにはまだいい後味が残っているのに、次のイベントもスタートしました。昼食は涼しい気候にピッタリのバーベキューでした。十二分ご馳走になって、午後からは気楽な篠山自然風景と温室の観光でした。雨後の

新鮮な空気を吸いながら、山の中を散策して、初秋の自然の素晴らしさを実感しました。温室内の様々な花は更に皆の興味をそそって、花を觀賞しながら、集合の、家族の、友達同士の、たくさんの記念写真も撮りました。その後、年一度の笹山味祭り会場に移動して、祭りの気分を満喫して、旬の栗、枝豆などの特産物もいっぱい買いました。

知らず知らずのうちに、集合の時間になって、名残惜しくて帰りのバスに乗って、大阪に戻りました。

いい思い出になれる楽しい一日でした。



帰国学友からの近状報告

元世話クラブ：長崎中央RC

張 航飛 (中国)

中国寧波保稅区投資合作局

私は張航飛と申します。1994年に私費留学生として来日し、日本語学校を経てから、長崎大学大学院に入学しました。1996年4月から1998年3月にかけて、米山奨学金をいただきまして、安心して勉強することができ、1998年4月に修士課程が終了してから、大阪魚市場(株)に就職しました。2002年1月に大阪魚市場を辞めて、故郷の寧波に戻りました。私は今寧波保稅区投資合作局に勤めております。

保稅区とは国際上で“自由貿易区”と言い、いわゆる国内の外国です。外国から保稅区に入る貨物は免税で自由に搬出入することができます。私は主に日本企業を誘致する活動をしております。具体的には寧波保稅区の交通の利便性、賃金の安さ、優秀な人材、政府の優遇政策など、いわゆる製品のコストダウンと競争力が高まることにつながる優位性を宣伝しております。現在の仕事はいままでやってきた水産とぜんぜん関係がありません。むしろ半導体、IT産業、機械などの会社との付き合いが多いです。今まで水産のことしかわからなかったののでいろんなことを勉強しながら見聞を広めてきました。

故郷に戻ると、やはり落ち着きますね。確かに長く日本に滞在したためか、考え方が日本的になり、中国に戻った当初は、変化した社会や人々の考え方に慣れるのに時間がかかりました。もちろん速く中国の社会にとけ込まなければなりませんから、今少しずつ慣れてきました。

寧波は上海より南にある港町です。日本とも深いかわりがあります。ずっと昔の遣隋使、遣唐使は海を渡って、寧波に上陸して、寧波から長安に行ったそうです。仏教の中の曹洞宗

という流派の発源地は寧波にある天童寺というお寺です。中国で一番古い図書館は寧波にあります。この図書館は天一閣と言います。寧波は歴史の町、文化の町と言われており、観光名所が多くあります。また寧波は中国の金型の町、プラスチック成型の町とも言われているほど、経済が盛んに行われているところでもあります。上海から寧波まで高速道路で車で3時間半ぐらい、飛行機で30分、汽車で4時間ぐらいです。現在上海と寧波の間に海横断橋を作る予定があります。工事はすでに始まっています。できるのは2007年と推測されています。

その橋ができれば、上海から寧波まで車で1時間半しかかからないことになります。ロータリアンの皆さん、学友会の皆さん機会があれば、ぜひ寧波までお越しください。



2003年度のテーマ 「異文化コミュニケーション」



中日草の根の文化交流について

元世話クラブ：山口RC

王 蔚 (中国)

(株)海豊 貿易開発部兼社長秘書

近年の科学文明、社会経済が日に日に進展する世界環境の中で、それぞれの国の人々が、平和の輪を広げ豊かな生活を営むためには、他国間との絆を深めていかなければならないと思っている。

中国と日本は、一時期の不幸な出来事を除いて、二千年に及ぶ古来から交流のあった歴史を踏まえて、生活文化が共通する良き隣人として、又共にアジア圏内の一員として、実りのある交流と協力を図り、相互利益を共有すべきでなからうか。

これまでの中日両国間の文化交流は、主として政府要員などの官界主導型であり、近年、合弁事業などにより経済界が加わったとしても、いわゆる一般民間人を主体とした草の根的な文化交流は極めて低調である。

信頼に満ちた人と人の繋がりや心に響く人との出会いの中で、相互理解を重ねることによって、その無形の集合が基本となり、両国の共存共栄に繋がるものだと確信している。

さて、「中日草の根の文化交流」を推進拡大していくために、私なりの考え方を述べてみたい。

まず、マスコミを利用することである。

情報化時代の現在は、人々は視聴覚によって敏感に反応する。隣国の文化、社会、経済はもとより、住民の日常生活を知ることによって、興味と親近感を増加させる。

又、意味疎通を図るために、必要な簡便に習得できる語学講座番組、身近な歴史、風俗を紹介する媒体を数多く取り入れることによって、より一層の効果をあげることだろう。従来、これらの報道番組は散見されるが、木目細かな工夫がされていないように見受けられるので、マスコミを通じて内容方法などを広く住民層からアンケート調査することも一つの方法だと考える。

次に、誰でも気楽に参加できる文通による交流である。

最も身近に相手を知る手段として文通がある。文字による意思伝達と、心と心が触れ合う中で、直接相手に会ってみたいという気持ちは人の交流に繋がるだろう。

中国と日本の間で国交が正常化した一九七二年から、すでに三十年が経過した。この間、中国では歴史的変革を成し遂げ、国家建設に大きな発展を見せている。特に、外国との交流を重視し、経済協力体制や観光事業に力を注いでいる。中国の五千年に及ぶ悠久の歴史文化や生活文化は、日本のそれと共通するものが多く、年々日本から中国の奥深い歴史を尋ねる人が増えていることは、本当に喜ばしいことであり、観光のかたわら文通の相手を尋ねて、友情を育み理解を深めることは、必ずや将来的に両国の共通の利益に結びつくものだと思うている。

第三に、努めて若者の交流の場を設けることである。

今の世界は、他国との協力を無くして平和的發展はあり得ない。未来を託す若者がいかにして社会の担い手として成長していくか、中日両国の若者が機会あるごとにフォーラム的な交流の場を設けて、意見の交換や建設的な発想と知恵を出し合い、相互扶助と共存共栄の道を探すべきだろう。

中国と日本は古代から一衣帯水の間柄にあり、これからも、両国の友好交流が共存共栄の基礎となるよう念願するところである。



日本とのコミュニケーション

元世話クラブ：大阪住吉RC

黄 嘉琪 (台湾)

会社員

はじめに

私は二年前に日本に来た。留学する前に、夏休みで友だちと一緒に修学旅行で日本に遊びに来たが、日本に対するイメージは本当に浅薄であった。当時イメージした日本は植民地の宗主国、日本メーカー、ドラマなどにとどまっていた。ほかには、日本人は仕事と自殺が好きだと思った。仕事好きで日本人の勤勉な国民性は言うまでもないが、大学の時に日本の文学を少し読んで驚いた。芥川龍之介も三島由紀夫も川端康成も自殺している。そして谷崎潤一郎は自死するに至ってなかったが、『春琴抄』の「佐助」は「春琴」のために、自殺のような行為で自分の両眼を針で突いた。理想と現実の間で、現実を自己の理想に統合できず、甚だしい苦悶の末の事であって、情感の強烈な日本人だと思った。

日本語は難しい

大阪と台北はともに大都会で、人間性も大変情熱的であるし、あまり変わらないと思った。台北で確かに標準語を勉強したが、二年前に大阪を訪れたときに、あまり話せなかった。ま

して大阪弁に感染するのを嫌がったり怖がったりして、その落差に自信を失い、無口になってしまっていた。当時、異国である大阪で生活する私は、まるで夏目漱石の『坊ちゃん』のように、探偵につけられているような、見張られているような、戸惑いと苛立ちがあった。しかし、喋らないと生きられないので、私は上京した『三四郎』のように、一から日本の文化を再学習することになった。毎日、家で閉じこもって悩むよりも積極的に日本社会を理解しようと一歩一歩前進してきた。

東京の人が大阪へ来て住むと、始めは標準語だったのに、日が経つにつれて自然に大阪弁になるようだ。反対に、大阪人は東京へ行っても、依然として大阪弁を喋るそうである。それは、大阪人が自分の文化に大きな自信を持っているということであろうか。そして、大阪弁自体もとても迫力があると考えられる。私はもちろん東京人でないが、今の私は大阪弁しかできへん。

今までの経験から考えれば、日本語は英語より、中国語、台湾語より遥かに難しい。英語、中国語、台湾語など「否定」という意志を表現するなら、センテンスの前（主語のすぐ次に）から表示される。日本語なら話の最後まで聞かないと意味が取れない。そして大阪弁は喋りやすいけれど聞き取りにくい。私にとっては、大阪弁を使おうとしたら、脳訳（中国語_日本語_大阪弁）しなければならない。言い換えにはとても苦労している。主語、動詞、述語などが、頭の中でぐるぐる回って、配列し組み合わせしている。最近ようやく大阪弁の夢を見ることができて、とても嬉しい。しかし、依然として「ぼちぼち行こうか」、「けっこうです」、「また今度」、「ほな、また」、「そのうちにまた会おうね」という柔らかい挨拶語に困惑している。いったい「ぼちぼち行こうか」の意味は誰が行くの？「けっこうです」は肯定の意味か、否定の意味か。「また今度」、「ほな、また」、「そのうちにまた会おうね」というのは、いったい「いつ」また会えるの？

日本に感染

かつての焦りは消え、大阪弁に慣れるにつれ、日本の生活に慣れるにつれて、次第に心は穏やかになってきた。かろうじて日本の文化を受け入れられるようになってきている。

六甲の山々を眺めながら、芦屋を背景とした大阪船場生まれの美しい四人姉妹の生活と運命を描く谷崎潤一郎の『細雪』を改めて思い起こしてみた。御堂筋に沿って、大阪の商業の中心地を散策しながら、生涯、大阪を離れることはなかった浪速区出身の司馬遼太郎の小説の中に、描写している商人の町の大阪を再認識した。そして、性欲・物欲に支配されていく人間性を井原西鶴がいきいき描いた享楽世界と大阪人の経済生活を改めて考えた。そして、同和教育を勉強するとともに、日本自然主義文学の先駆者である島崎藤村が描いた「破戒」の中に、父親の戒めを破って自分の素姓を告白した被差別部落出身の小学校教師「瀬川丑松」の苦悩を改めて理解した。ほかには、明治、大正、昭和を通じて、ロマン主義文学に独自の境地を開いた金沢の泉鏡花の住まいも訪れてきた。

「郷にいれば、郷に従え」、日本の文化を再学習したあげく、現在の私は日本に感染している。日本の教育、風土、人情、歴史、政治、社会、経済、水引、礼儀を再認識した。川柳を作ってみた。金沢で和太鼓をやってみた。前田利常の「忍者寺」を拝観した。豊臣秀吉が石山本願寺の旧地に築いた大阪城を訪れた。大阪の春の風物詩として有名である満開の桜に包まれた造幣局で大阪の春を実感した。現存する世界最古の木造建築物で飛鳥様式の法隆寺を拝観した。RI第2660地区米山奨学生レクリエーションが開催された宝塚大劇場での花組公演「エリザベート—愛と死の輪舞」、国立文楽劇場の「日本舞踊—幻お七」、京都の歌舞伎「祇園甲部歌舞会」、大槻能楽堂「砧のお能、清水の狂言」を鑑賞させていただいた。大阪住吉ロータリーで卓話をしてみた。住吉大社で初詣もした。初御籤を引いた。本来、生ものは苦手だが、今は刺身にはまるようになってきた。まさに、日本に感染している。

おわりに

留学の原点ともいべき国際交流（異文化理解）についても、本文の行間から具体的な手がかりを貪欲に掴み取っていただくことを筆者として願うばかりである。二年間にわたって、本文が刊行にされる機縁を思うと、万感胸に迫るものがある。現在、日本語が話せる台湾人がだんだん少なくなっているが、これからも、日台間における国際交流・異文化理解を使命として貢献していきたい。



文化の違いなどについて M君との対話

世話クラブ：大阪大手前RC

万 軍民（中国）

大阪大学経済学研究科・社会経済研究所博士後期課程

ある日本の友人の結婚式に出た。二次会で新婦さんの親戚であるM君が私の隣に座っていた。M君と酒を飲みながら多くの話をした。M君は旧帝大を卒業して会社を6、7年勤務したらしい。私と同じくらいの年で、しかも中国に関する話が好きそうな人だ。M君は大学の時期から中国のあちこちに足を運んだらしい。日中間に関する料理や勉強など多くのものを語りあった。これらの多くの話は今ではほとんど覚えていないが、ひとつの対話だけがまた頭に残っている。

「中国について、ひとつ理解していないものがある。なぜ日中間で歴史認識や教科書に関して問題となるのか。歴史認識の違いはどこからくるのか」と聞かれた。私はこの質問を受けて、呆然としていた。十年前日本に来たとき、私の友人である日本人保証人もこれと類似した問題を問いかけた。当時、答えられなかった。そして、日本で十年以上生活して、いろんな面から考え始めて、だんだん、納得する答えを見つけたような気がした。そして、頭を整理して、「日中間の文化の違いによるものだ」と自信を持ってM君の質問に答えた。「どんな違い？」とまた聞かれて、引き続き答えた。「中国の場合、悪いことをした人間、いわゆる悪人、その悪人は死んでいても、罪が消えない、後の世代の人に許してもらえない。例えば、宋の有名な將軍岳飛氏を殺した秦桧氏のことだが、秦桧氏の石碑に今にも観光客に唾を吐かれている。これは日本では考えられないものだろう。「そうだ。日本ではどんな人でも死んだら仏になる。たとえ罪を犯した人でも、その人は死を覚悟してまで何かを行うとなると、何をやっても後は許される。日本の諺のように、過去のことは水に流す」とM君は言った。「日本ではそのようなことは通っているかもしれないが、中国ではこれは考えられないものだ。罪を犯した人間は、その罪は永遠に残る、仏には絶対ならない、死んでいても罪人であって、後世にも絶対に許してもらえない。もちろん、反対に恩をもらったら、その恩も永遠に残り、後の世代に永遠に好評される」と返事した。「それでも理解しにくい、なぜなのか」とM君はまた聞いた。「これは通常の中国人が思っていることだ。中国の社会を長期間コントロールする一種の自律メカニズムとも言えよう。日本の文化だと、罪を犯した人は神になることがあったら、社会を長期間自律するメカニズムはどこにあるのか私はわからない。神になりたい人、あるいはなった人のことを思うと、私は怖い気がする」と私は冷や汗が出た。このように、二次会が終わるまでM君とも納得するものは得られなかったようである。

しかし、「話は楽しかった。久しぶりに学生さんと話が出来てよかった。いつかまた会おう」とM君は言ってそれぞれ帰宅した。あれからしばらくたって、友人を通してM君からのメッセージがあった。「どこかでまた会おう、前の話を続けよう」のものであった。「M君はまだ納

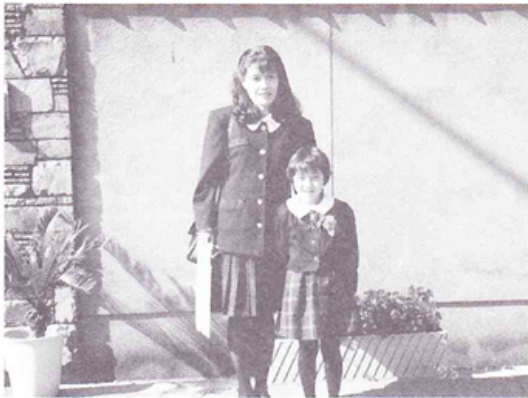
得していないようで、今度会うとき、彼をどうやって説得するのか、あるいは、M君は私をどうやって説得してくれるか、私は間違っているのか」と不安やいろいろな疑問を抱えながら再会のことを楽しみにしている。

It's NEW

「愛の広場」

このコーナーではOBや奨学生が個人的に社会奉仕をしている様子をご紹介します。
あなたの側にも是非取り上げたい方が居られましたら、あるいはご自身の奉仕活動について、もっと仲間を広めたい方はお手数ですが、本会までご連絡ください。よろしくお願ひいたします。 bfath612@cwo.zaq.ne.jp
皆さんの暖かい心と善意の種をもっと蒔きましょう。

OB林小微さん（台湾、元世話クラブ：和歌山東RC、貿易経営）のボランティア活動をご紹介します。



施設にて（里親）



識字教室にて（日本語指導）



パピーウォーカー（盲導犬の子犬を飼育する）
（世話されていたラブラドルレトリバーはめでたく盲導犬になったそうです。）

2003年度 活動写真



総会にて



新規米山奨学生歓迎会にて



RI2660地区米山レクリエーションにて



役員会にて

It's NEW

世界のロータリアンとコミュニケーションしませんか！！

『国際ロータリー2004年国際大会（関西）』のお手伝いをして下さる“ホスピタリティ”豊かな語学ボランティアを募集しています。ご家族や、知人・友人を是非ご紹介下さい！

1. 応募資格

- (1) 応募時満18歳以上の方（高校生は不可）
- (2) 期間中3日以上参加できる方（1日の稼働時間は6時間以上）
- (3) 参加者と英語でコミュニケーションが取れること（英語検定準1級以上が目安ですが、レベルチェックをさせていただきます）

2. 活動内容

「国際ロータリー2004年国際大会（関西）」運営のための語学サポート業務。

3. 活動期間

2004年5月20日（木）～5月27日（木）

4. 活動時間

ご担当いただく業務にもよりますが、概ね午前7時から午後9時までの間の時間帯の中で活動していただきます。

5. 活動場所

大阪国際会議場、大阪ドーム、リーガロイヤルホテル等

6. 活動条件

- (1) 報酬はありませんが、「活動補助費」として5,000円/日（定額交通費込み）を支給させていただきます。（但し、ロータリアン及び配偶者には「活動補助費」はお支払い致しません）
- (2) 業務時間帯に応じて食事を支給致します。
- (3) 宿泊補助はありません。宿泊を希望される場合は、各自での予約及び支払いとなります。

7. 募集人員

200名程度

8. 採用条件

- (1) 書類審査・電話面談を実施の上、採用を決定致します。
- (2) ボランティアの応募の内容・データは、事務局で管理し、外部に公開は致しません。

9. 応募方法

履歴書（必ず写真を添付して下さい）・職務経歴書を事務局宛、郵送にてお送り下さい。

10. 募集・申込み期間（申込みの締切り期日は厳守して下さい）

2003年11月17日（月）～2004年3月26日（金）

11. お申し込み・お問合せ

〒541-0056

大阪市中央区久太郎町2-5-28 久太郎町恒和ビル4階

「国際ロータリー2004年国際大会（関西）」事務局 第11部会宛

TEL: 06-6258-0561 FAX: 06-6258-0562

2003年度米山奨学生学友会（関西）役員名簿

2003年9月5日現在

会長	陳 麗華 (杉本麗華) 大阪産業大学教養学部講師 〒555-0001 大阪市西淀川区佃5-12-5-905	[奈良R.C.] ☎・FAX: 06-6477-3240 (学友会専用) E-mail: bfath612@cw.ozq.ne.jp
幹事長	權 貴玉 アトリエ四季 日本画家 〒611-0013 京都府宇治市菟道池山64	[園部R.C.] ☎: 0774-23-8471 (H) E-mail: yamanaka-kwon@k4.dion.ne.jp
副会長 D-2660	梁 栄友 湊川女子短期大学講師 〒556-0021 大阪市浪速区幸町1-3-13-207号	[印西R.C.] ☎・FAX: 06-6636-1262 (O) ☎: 06-6567-1500(H) E-mail: yyw903@yahoo.co.jp
D-2680	林 紅 産業技術総合研究所 博士研究員 〒569-1146 高槻市赤大路町44-1-302	[小牧R.C.] ☎・FAX: 0726-92-8498 (H) E-mail: lin-hong@aist.go.jp
相談役	重光世洋 大阪産業大学工学部教授 〒630-8054 奈良市七条西1-11-19	[大阪R.C.] ☎: 0728-75-3001 Ex3711 (O) 0742-44-5004 (H) E-mail: sigemits@ce.osaka-sandai.ac.jp
相談役	清河雅孝 京都産業大学法学部教授 〒607-8418 京都市山科区御陵牛尾町72-7	[京都東R.C.] ☎: 075-594-2029 (H) FAX: 075-594-5249 (H) E-mail: kyomark@cc.kyoto-su.ac.jp
顧問	林 錫璋 桃山学院大学法学部教授 〒593-8327 堺市鳳中町8-284-7	[名古屋西R.C.] ☎・FAX: 0722-62-4633 E-mail: kenji@andrew.ac.jp
会計監査	莊園福松 税理士 〒530-0014 大阪市北区鶴野町4番コープ野村梅田A216号	[神戸R.C.] ☎: 06-6375-1070 (H) FAX: 06-6375-1049
学術	呉 賢龍 甲子園大学経営情報学部教授 〒532-0032 大阪市淀川区三津屋北1-6-20	[堺東R.C.] ☎: 06-6301-3358 FAX: 06-6300-5271 E-mail: kendragon@ezweb.ne.jp
書記	ピラール イリヤス 立命館大学経済学部常勤講師 〒604-8874 京都市中京区壬生天池町40番地MNS天ヶ池204	[京都北東R.C.] ☎: 06-802-0667 (H) E-mail: bilal@ec.ritsumei.ac.jp
書記	黄 嘉琪 会社員 〒542-0073 大阪市中央区日本橋2-1-13	[大阪住吉R.C.] ☎: 06-6631-8259 (H) E-mail: kookaki@pchome.com.tw
会計	張 鑫隆 京都大学大学院助手 〒606-0814 京都市上京区幸神町292メゾンフローレンス302号室	[高槻R.C.] ☎・FAX: 075-255-2875 (H) E-mail: diunjp@yahoo.co.jp
会計	李 麗兪 中国語教師 〒547-0034 大阪市平野区背戸口5-3-11	[奈良R.C.] ☎・FAX: 06-6704-9895 (H) E-mail: anpcigai@yahoo.co.jp
親睦	福山嘉一 朝盛国際有限会社 代表取締役社長 〒658-0023 神戸市東灘区深江浜町124-307	[奈良R.C.] ☎・FAX: 078-413-9473 (H) E-mail: asamori@f6.dion.ne.jp
親睦	林 小微 ユニバーサル T.C.貿易経営 〒546-0032 大阪市東住吉区田辺3-14-10	[和歌山R.C.] ☎: 06-6607-6494 (H) FAX: 06-6607-6409 (H) E-mail: bbutc@yahoo.co.jp
国際交流	豊田秋雄 豊田矯正・歯科医院 院長 〒565-0061 吹田市門山町15-28	[大阪西南R.C.] ☎: 06-6330-3555 (H) FAX: 06-6302-1244 E-mail: akio@toyota-shikayosei.com

会報編集 莊 発盛 大阪大学大学院博士後期課程
〒538-0031 大阪市鶴見区茨田大宮4-23-22-902

[京都山城R.C.]
☎：050-1005-7913 (H)
FAX：020-4668-1960
E-mail：fattseng2001@yahoo.co.jp.

庶務 祝 炳信 小林製薬(株) 研究開発
〒566-0011 摂津市千里丘東1-12-19 シティ千里丘203室

[武蔵国分寺R.C.]
☎：090-8305-1091
E-mail：zhuhe@hotmail.com

学友会ホームページアドレス

http://osaka.cool.ne.jp/yoneyama_k/index.html

ロータリー米山奨学生学友会（関西）
2002年度会計収支決算報告書

自2002年4月1日
至2003年6月30日

収入の部		
科目	金額	備考
前年度繰越金	327,214	
運営費補助金	279,000	米山記念奨学会
援助交付金	500,000	2660地区(25万/2002年度、25万/2003年度)
会報補助金	200,000	米山記念奨学会(会報18号/19号)
会報特別補助金	265,000	2680地区16.5万(会報18号/19号)、2660地区10万
会費	38,000	会費 @2,000円×19名
総会参加費	253,000	
総会補助金	90,000	米山記念奨学会
総会特別補助金	149,685	2660地区(49,685/2002年度、10万/2003年度)
秋懇親会参加費	152,000	
秋懇親会補助金	35,000	米山記念奨学会
広告費収入	60,000	
利息収入	51	
総計	2,348,950	

支出の部		
科目	金額	備考
運営費	78,432	
事務用品費	27,430	
交通費	33,300	
会報作成費	283,500	
総会費用	253,295	
秋懇親会費用	309,216	りそな銀行住道支店： 504,893
通信費	150,340	UFJ銀行梅田支店： 617,882
雑費	945	現金(手元有高)： 89,717
次年度への繰越金	1,212,492	
合計	2,348,950	

次期繰越金は上記の通り保管されています。以上御報告申し上げます。

2003年6月30日

会計 李麗俞

【会計監査報告】

会計監査の結果、収支決算報告は適正と認めます。

2003年6月30日

会計監査

莊園福松

押印

*2002年総会で会計年度は7月1日より翌年6月30日に変更することに承認いたしました。

ロータリー米山奨学生学友会（関西）
2003年度会計予算（案）

自2003年7月1日
至2004年6月30日

収入の部		
科目	金額	備考
前年度繰越金	1,212,492	
運営費補助金	250,000	米山記念奨学会から
援助交付金		2660地区(2002年度に入金)
会報補助金		米山記念奨学会(2002年度に入金)
会費	40,000	
総会参加費	250,000	
総会補助金	100,000	米山記念奨学会から
秋懇親会参加費	150,000	米山記念奨学会から
秋懇親会補助金	40,000	米山記念奨学会から
総計	2,042,492	

支出の部		
科目	金額	備考
運営費	80,000	
事務用品費	30,000	
交通費	40,000	
会報作成費	300,000	
総会費用	300,000	
秋懇親会費用	300,000	
通信費	150,000	
雑費	10,000	
次年度への繰り越し金	832,492	
合計	2,042,492	

以上御報告申し上げます。

2003年6月30日

会計 李麗兪

＊個人特別寄付に感謝いたします。

2002年総会に中野董夫様、OB羅坤燦様

2002年懇親会に北里桂一様、向井菊美様

2003年総会に熊澤忠躬様、近藤雅臣様、山本新三様、安平和彦様、井上瑛夫様、
北里桂一様、向井菊美様

2003年懇親会に山本和雄様、北里桂一様、OB豊田秋雄様

2003年度米山奨学生学友会(関西) 会員名簿

2003年12月現在

学友の番号順で次の通り

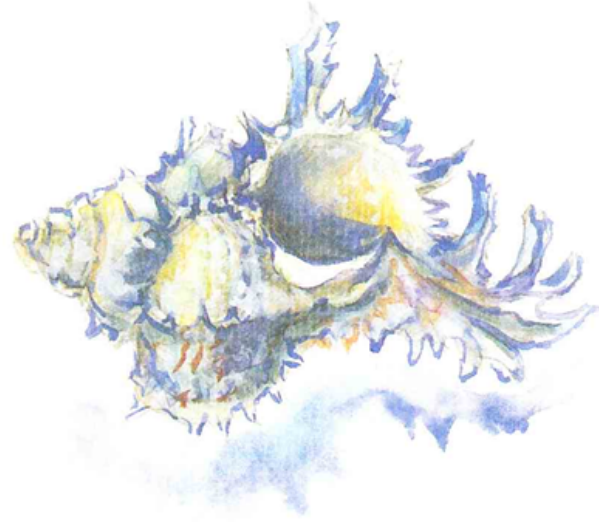
重光 世洋	00066	林 妙 音	03727	李 瑞 竣	08267
中山 勝富	00168	金 寶 英	03752	劉 洋 洋	08284
林 錫 璋	00204	金 玉 善	04634	王 萱 琳	08300
曾根 憲昭	00304	桂 小 蘭	04707	楊 素 霞	08301
郭 顯 榮	00372	劉 莉	04713	亞森艾尼瓦尔	08303
郭許 瑤琴	00465	洪 萬 杓	04817	錢 鷹	08442
徳山 卓也	00497	呉 佳 漣	04898	朴 貞 子	08486
清河 雅孝	00577	段 煥 祥	04951	拜山 沙克	08824
豊田 秋雄	00590	孫 寶 徽	04992	范 傑	08957
林 宏 作	00596	李 文 英	05005	韓 銅 珍	08959
東 正 伯	00651	曹 美 庚	05014	全 崇 鐘	08964
藤岡 寧発	00729	李 惠 儀	05017	林 志 煥	08969
魏 栢 良	00972	崔 銀 珠	05097	董 愛 軍	08978
莊園 福松	00975	張 敏	05158	蔣 海 波	08983
羅 坤 燦	01066	伊力亜司比拉勒	05174	李 基 旻	08986
大田 一博	01122	林 勳	05177	劉 秀 梅	08989
南 俊彦	01135	牧野 曉輝	05183	韓 成 一	09163
武田 維明	01140	蘇 燕	05187	金 藝 蘭	09164
森重 映蘭	01265	周 人 英	05497	聶 智 穎	09605
張 壁 東	01266	林 紅	05676	祝 炳 俏	10222
鍾 雲 海	01279	賴 愛 華	06060	何 珮 儀	10337
沈 文 良	01362	張 鑫 隆	06087	黄 嘉 琪	10339
呉 賢 龍	01409	青島 誠治	06313	黄 濟 華	10340
李 惠 玲	01538	陳 婉 萍	06335	張 仲 衍	10356
黄 晨 昌	01704	李 灿	06338	金 承 喜	10365
林 小 微	01718	梁 榮 友	06620	張 革 華	10370
竹田 淑恵	01752	李 殷 娥	06651	張 張 張	10371
李 麗 兪	01868	蔡 世 蓉	06697	王 蔚	10454
鄧 尚 昇	01893	莊 発 盛	06704	張 銘 心	10521
早川 由美	02077	潘 振 興	06722		
福山 嘉一	02236	李 健 鵬	06782		
高樹 亮一	02467	陳 章 祺	06831		
權 貴 玉	02475	江 波	06947		
陳 麗 華	02739	劉 必 進	06974		
北山 玉翠	02741	簡 月 真	07386		
施 學 昌	02786	金 信 明	07395		
姜 兌 欣	02791	陳 於 華	07673		
朴 鍾 祐	02793	塔 娜	07697		
王 充 志	02796	黄 貞 燕	08196		
蔡 秀 娟	03059	李 雅 琦	08206		
王 冬 蘭	03507	高 丛 笑	08254		
李 東	03510	張 慶 熙	08258		

モータメド・エクテサビ, ミトラ	01906	ポダルコ, ピョートル・E.	06756
ザヤニ, モハメッド・ヘディ	03400	ルッジェリ, アンナ	07355
シュレスタ, ディネス・プラサド	03754	タンジュン, スパルト	07473
タバオ, ヘンリー・アグレス	04110	グナワン, エディ・スジョノ	08255
リジャル, ホム・バハドゥル	06522	オソコール, オリガ	08270
マルティヌス, アデ・ミルザンティ	06752	ブーンタナボン, ソムボン	09086

相談コーナー

学友会は留学生のために相談コーナーを設けました。さしあたり、次のような分野と担当者を決めました。ご利用ください。

法律関係：清河雅孝	〒607-8418 京都市山科区御陵牛尾町72-7	TEL：075-594-2029 FAX：075-594-5249
税理関係：莊園福松	〒530-0014 大阪市北区鶴野町4番 コープ野村梅田A-216号	TEL：06-6375-1070
マーケティング関係：吳賢龍	〒532-0032 大阪市淀川区三津屋北一丁目6-20	TEL：06-6308-4070 FAX：06-6300-5271



ROTARY
YONEYAMA
SCHOLARSHIP
ALUMNI
ASSOCIATION

1. 総会及び新規米山奨学生歓迎会

日 時：2003年7月12日(土)
 場 所：葉業年金会館 (見 p.14)
 参加人員：ロータリアン 23名
 OB会員 12名
 新規奨学生 25名
 内 容：①役員の紹介、②昨年度活動報告、③会計報告 新年度予算(案)の承認、④OB、新規奨学生の紹介、⑤懇親会

2. 秋懇親会 (見 p.7)

日 時：2003年10月13日 (月)
 行 き 先：ささやまユニットピアと篠山味祭り
 来 賓：ロータリアン 5名
 OB会員家族、友人 23名
 奨学生 8名

It's NEW

3. ボランティア奉仕

- A. 家庭養護促進協会主催：「おやこDE運動会」2003年11月2日(詳しく p.5)
- B. 京都府木津中学校主催：「国際交流」2003年11月22日(詳しく p.6)
- C. 家庭養護促進協会主催募金運動：「今宮戎福飴売り」2004年1月9～11日

4. 役員会

- A. 第1回、6月14日 (土)
 大阪南教会にて
 議 題：①秋懇親会の見直し、②会員名簿の見直し、③ボランティア活動について
 報告事項：①会計報告、②総会の役割分担に備えて、③会報19号と総会案内の発送
- B. 第2回、7月12日 (土)
 葉業年金会館総会後にて
 議 題：①会員名簿の追跡調査について、②ボランティア参加について、③秋懇親会の行き先について
- C. 第3回、9月13日 (土)
 大阪南教会にて
 議 題：①役員会にロータリンが監事として加入される要望について
 そ の 他：①新役員紹介、②6～9月の会計報告、③秋懇親会役割分担、④秋懇親会案内の発送

会 員 の 消 息

- 本会相談役清河雅孝先生は教職の他、2003年より弁護士としても活躍されています。
- 黄 嘉琪さんは2003年末台湾に帰国し、三菱重工に勤務されています。
- 林 紅さんは2004年春から中国清華大学材料科学与工程系の新型陶磁与精細工芸国家重点実験室の助教授として栄転されました。
- 莊 発盛さんは2004年春から尚美学園大学総合政策学部の国際経済論専任講師として着任されます。
- 簡 月真さんは2004年2月に帰国し、台湾、南台科技大学応用日本学科で教鞭をとられます。
 *職場等の変更がありましたら、本会までお知らせください bfath612@cwz.zaq.ne.jp
 陳麗華まで